

事務 事業名	コード1	1205	農業振興事務費	課 所属班 電話番号	農水産課 振興班		
	コード2		産業まつり(旭・海上・干潟)の評価 ☐ 主要事業		68-1175	内線	253
政策 体系	基本方針	5	活力と躍動感に満ちたまちづくり	予算 科目	会計		
	施策	1	農業の振興		一般会計		
	施策の展開	5	交流事業の促進	根拠 法令	旭市補助金等交付規則		
	基本事業	287	産業まつりの開催				
				款	項	目	
				06	01	03	

1 現状把握(Do)

(1)事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 17 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全休像を記述⇒	農水産物・商工業製品の展示直売をメインにステージイベント等を行う。 各会場でテーマを設定している。 旭会場(文化の杜公園)「花」 干潟会場(中学校校庭)「餅と畜産物」 海上会場(コミュニティ公園)「野菜」 実施団体:旭市産業まつり実行委員会、ふるさとまつり・ひかた実行委員会、海上産業まつり実行委員会 実施時期:10月～11月 時間:午前10時～午後2時 【業務の流れ】 まつり開催にあたり、実行委員会議の開催、イベント業者との契約、出演者交渉、出店者募集、出店者会議、交通指導員や警察との打合せ、各種申請、開催PR、当日の各種イベント運営を行う。(3地区とも農水産課振興班が事務局となる)

(2)トータルコスト

① 事業費の内訳(費目等)		単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
収入:市補助金、出店料 支出:イベント委託料、ステージ出演者報償費、PR費 その他事務経費等	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円	2,440	1,898	2,615	2,483		
	一般財源	千円	10,453	7,955	10,098	10,453		
② 延べ業務時間の内訳		事業費計(A)	千円	12,893	9,853	12,713	12,936	0
2人×3h×50日×3回=900h(班員事務) 29人×8h×3回=696h(前日準備) 29人×10h×3回=870h(当日:課事務員) 368人×8h=2,944h(当日:他課職員) 合計 5,410h	正規職員従事人数	人	2.68	2.68	2.68	2.68		
	延べ業務時間	時間	5,410	5,410	5,410	5,410		
	人件費計(B)	千円	20,558	20,558	20,558	20,558	0	0
		トータルコスト(A)+(B)	千円	33,451	30,411	33,271	33,494	0

(3)事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
	23年度実績(23年度に行った主な活動) 旭会場、干潟会場、海上会場の3箇所で開催。 農水産物・商工業製品の展示直売をメインにステージイベント等を行った。 24年度計画(24年度に計画している主な活動) 旭会場、干潟会場、海上会場の3箇所で開催。 農水産物・商工業製品の展示直売をメインにステージイベント等を行う。	ア 開催回数	回	3	3	3	3		
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	イ 出店者数	団体	356	398	416	420		
	旭市民及び近隣住民	ウ チラシの配布数	枚	69,000	69,000	69,000	69,000		
目的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
	・交流して、楽しみ、相互の連帯感を持つことができる。 ・市の農水産物・商工業製品を知る。 (できれば買ってもらう。)	ア 来場者数 (産業まつりのPR効果や交流の場として機能しているかを見ることができる)	人	133,000	44,000	100,000	100,000		
上位目的	④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか	イ							
	・広く「旭市」を発信し、特色のある産業まつりとし地域を活性化させる。 ・旭市の農水産物、商工業製品の活性化	⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
		ア 市民アンケートなどの実施 (旭市の知名度、地域が活性化したと 感じる人の割合など)							
		イ							

(4)事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か?どんな経緯で始まったか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか?開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか?	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
合併前の各市町村(3市町)においてそれぞれの地域の産業の振興と、地域住民の相互のふれあいを成就するため。旧旭は農協中心の祭りに昭和59年に市が加わった。旧海上は昭和62年から。旧干潟は昭和62年から。	合併前から、それぞれの市町村でそれぞれの地域の振興として行っていた。合併後7年が経過し旭市全体での一体感の醸成が必要になっている。実行委員会(幹事会)も市職員の負担が増加している。合併5年間の変化は特になし。出店者に市外の業者が増えている。	・合併し7年が経過し、市民の一体感を醸成するためには同様のまつりなので、一本化してはどうか。・その地域には他にイベントのようなものがないので、継続をしてほしい。・3つのまつりを一本化すると来場者の総数は減るのではないかと。・「特色がない」「やめてもいい」「手伝うのは大変」「駐車場が困っている」といった意見がある。

事務事業名	農業振興事務費 産業まつり(旭・海上・干潟)の評価	課名	農水産課	班名	振興班
-------	------------------------------	----	------	----	-----

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】  ☐ 結びついている ⇒【理由】  この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？ 総合計画上の施策「農業の振興」には結びつきが薄い。
	② 対象・意図の妥当性	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】  ☐ 適切である ⇒【理由】  対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ それぞれ合併前の各地域で同時期にほぼ同様の内容で開催をしている。合併後7年が経過し、そろそろ旭市全体の一体感の醸成のため、1本化してもよいのではないかな。（規模が拡大でき、コストも下げられるのではないかな。）
	③ 行政関与の妥当性	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】  ☐ 妥当である ⇒【理由】  なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？ 運営に関しては実行委員会が確立し、主体性を持ち独自に運営をしていったほうが良いのではないかな。地域の団体にも関与してもらうべき。
	④ 成果の現状水準	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】  ☒ 妥当である ⇒【理由】  あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？ 悪天候などの気象条件を除き、出店団体、来場者が増加している。来場者数は駐車場の関係で厳しい。
	⑤ 成果の向上余地	☐ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】  ☐ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】  ☒ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】  次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するとうか？ 各会場のキャパシティなど現状のまま実施しても大幅な集客は望めないのではないかな。会場の選定や会場までのアクセス方法・実施方法など検討の余地がある。
有効性 評価	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある  (1) 事務事業名：() (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】  ☒ 連携ができる ⇒【理由】  ☐ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】  ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】  他に手段がある場合 (1)具体的にはどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？ 他のイベントと連携することも可能ではないかな。
	⑦ 事業費の削減余地(表面トータルコストの事業費部分)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】  ☐ 削減余地がない ⇒【理由】  事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど) 3つのまつりの補助金額は合計で10,453千円で、一本化し規模を拡大するにしてもコスト削減になるのではないかな。
効率性 評価	⑧ 人件費の削減余地(表面トータルコストの人件費部分)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】  ☐ 削減余地がない ⇒【理由】  やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？ 担当職員従事時間＋当日職員手払い＝5,410時間。特に、実行委員会(幹事会)開催は市が事務局を行っている。団体に協力を求める。
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】  ☒ 公平・公正である ⇒【理由】  事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 市民誰もが参加できるイベントなので妥当と考える。市外の方を24年度から出店制限を行った。

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1)1次評価者としての評価結果		(2)全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性	☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	事業の総論としては妥当と思われるが、運営方法、開催時期、開催回数など見直す余地がある。特に運営にあたる市職員の関与は減らすべき。今年度から出店規制をした。負担金を上げることは難しい。駐車場の問題がある。「産業」の観点では、工業関係者が少ない。キャラクターショーなどの中身も見直したい。
② 有効性	☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	
③ 効率性	☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	
④ 公平性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1)今後の事業の方向性(複数選択可)※2～3年後を目処にした方向性 ☒ 目的再設定 ☐ 事業のやり方改善による成果向上 ☒ 事業のやり方改善による事業費削減 ☐ 受益機会の適正化 ☐ 廃止・休止 ☒ 行政関与の見直し ☒ 事業統廃合・連携(関連事業:) ☒ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減 ☐ 費用負担の適正化			(3)改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	○			低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持	○																						
	低下																							
(2)改革改善案について※いつまでに、なにを、どうするのか？ ①コストパフォーマンスや市民一体感の醸成の観点からいずれは1つにしてい。 ②実行委員会(幹事会)の形態変更 ③キャラクターショー・ステージをやめる。 ④その他(時間短縮、来客数や売上の把握、負担金を上げる、企業協賛や募金を募るなど)																								
(4)改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 ①各地域(実行委員会・幹事会)の理解を得る必要がある。 ② ③ ④																								